

No 34	宇部市立西岐波中学校
調査研究名	学び合いのある授業づくりの研究
調査研究計画	1 研究・研修の主題 対話を大切にし、他者の考えや行動に配慮できる生徒の育成 2 研究・研修の意図 研修の意図を端的に述べれば、次の2点である。 ①すべての生徒に学びを保障すること。 ②すべての教師が互いに学び合える職場にすること。 本校は生徒数524名の規模であり、不登校傾向にある生徒や問題行動を起こす生徒も少なくない。また、学ぶことから逃げている生徒も多い。そこで、解決策の一つとして、東京大学の佐藤学教授が提唱される「学びの共同体」理論を参考にして、生徒が互いに信頼し合い、学び合える学級づくりに努めている。 こうした授業づくりを通して、教員の同僚性の構築にも力を注いでいる。言い換えれば、教員が互いに意識的に対話を持ち、学び合える職場を作ろうとしている。小学校で「学級王国」と揶揄されるように、中学校においても教科の授業は、ある意味、治外法権の世界である。そのため、授業の質、学級経営の質、生徒との応答の質など、多くの部分において、個々の力量や裁量に委ねられている。そのことが教員の成長に歯止めをかける要因の一つとも言える。また、若い教員も自分からベテランの教員に尋ねないので、自分の枠組でしか考えられない恐れもある。これらの点を「学びの共同体」の実践を通して改善していこうとするものである。 さらに、年間を通して、研究会を行うことで、教員の「授業を見る目」を鍛える取組も進めている。そのため、本校では授業で何を見て、その後何に語るかを事前に共通理解を図り、実践してきた。授業を見る目を鍛えることは、自分の授業を改善する視点となっており、今年度も強調して取り組みたいと考えている。そのことは、生徒の学力向上と人間関係の構築に大きな影響を及ぼすと思われる。 これらを通して、すべての生徒が信頼関係を築き、安心して学校生活を送ることができる学校へと変えていきたいと考え、上記の主題を設定した。 3 研究・研修の内容 以下に示すように、授業改善が中心であるが、より望ましい生徒集団づくりのために特別活動の実践も有効に活用したいと考えている。 ○教科指導における望ましい「学び合い」のあり方 ○教科指導における教師の役割と生徒の自己評価のあり方 ○小集団における話し合い活動のあり方 ○特別活動における人間関係づくりの有効性 ○縦割り班活動の有効性と課題
授業研究・研修等の公開など研究成果の還元方法	
○校内研究会(年2回、講師招聘あり) 実施日:6/6(月)3年国語 2/15(水)2年社会 ○学年研修(年4回、ビデオによる公開授業の検討) 実施日:5/25(水) 9/20(水) 10/19(水) 1/25(水)	